

## 平成23年度事業報告書

(概要)

1. 「国際交流 日本ジュニアヨットクラブ競技会2011」は6年前の平成17年(2005年)の愛知万国博覧会の開催期間中に開催された「国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2005」と同じ蒲郡市の海陽ヨットハーバーで、愛知県ヨット連盟、名古屋市ヨット連盟、なごやジュニアヨットクラブとの共同主催で、8月5日～7日開催しました。平成23年2月22日、ニュージーランド南島のクライストチャーチ市を震源とする大地震が発生し、同市を中心に大きな被害が出たため、当連盟からも各クラブに呼び掛けて救援募金を集めて、前年の国際交流競技会2010のクラブ対抗レース優勝クラブ(江の島ヨットクラブジュニア)の選手3名のセーリング研修をニュージーランドで同年3月25日～4月1日実施した際に、引率の当連盟小野澤理事から石原伸晃会長のお見舞いの手紙と一緒に渡しましたが、本年度の国際交流競技会に招聘状を出した所、元気に参加してくれました。  
平成23年3月11日の東日本大震災によって被災した岩手、宮城、福島各県の宮古ジュニアヨットクラブ、松島・名取ジュニアヨットクラブ、いわきジュニアヨットクラブでは、ハーバー、救助艇、ディンギー艇等壊滅状態となりました。幸いにも人命には被害がなかったものの、日常生活の再建、街の復旧・復興には時間がかかる状況ですが、(財)日本セーリング連盟による義捐金募集活動に協力し、各登録クラブに義捐金や、艇、艀装品、救助艇等の有償・無償の提供の呼び掛けを進める一方で、被災3クラブに対して、生活基盤が落ち着いたら再びヨット活動をする元気を持って貰おうと、費用を連盟で負担し国際交流競技会へ招待しようと呼びかけたところ、3クラブ14名の選手と16名の指導者・保護者に参加して頂くことが出来ました。  
本年度のクラブ対抗レース特別賞は、多くのクラブからの選手が海外セーリング研修に参加出来るように、優勝クラブだけの3名ではなく、優勝、2位、3位のクラブから、各クラブ1名の合計3名としました。又、東日本大震災の被害とその後の福島原子力発電所の放射能漏れの影響を考慮して、5月開催予定だった第31回日本少年少女オープンヨット大会の開催を中止しましたので、予定していた特別賞(タイクニック参加資格)を、本競技会の7位と10位のクラブに授与する事にしました。
2. 平成23年7月13日、連盟事務局長を6年間務めて頂いた吉村茂理事が療養の甲斐なく逝去されました。既に正会員及び各登録クラブにはご連絡しましたが、改めてここに慎んでご報告申し上げます。新しい事務局長には熊川博委員に就任頂いておりますが、何分引継ぎも殆ど無い状況でしたので、正会員や登録クラブの皆さんにご迷惑をお掛けしていると思っておりますが、前事務局長同様にご協力、ご支援を宜しく申し上げます。
3. 正会員が代表する登録クラブには、一昨年より、クラブのジュニアセーラーの名簿の提出と、その人数に応じたクラブ負担金の納入をお願いしておりますが、本制度についてのご理解とご協力を引き続きお願いします。

4. 本年度の競技会事業は下記の通りですが、詳細は部門別に記載します。

第31回日本少年少女オープンヨット大会

平成23年5月3日～5日 神奈川県江の島ヨットハーバーでの開催予定でしたが3月11日東日本大震災の被害とその後の福島原子力発電所放射能漏れの状況を考慮して開催を中止

ジュニアヨット・クリーンエコセーリング大会（中海・宍道湖弘済条約記念全国大会）

平成23年6月11日（土）～12日（日） 島根県松江市本庄町水辺の楽校沖

国際交流 日本ジュニアヨットクラブ競技会2011

平成23年8月5日（金）～8月7日（日）愛知県蒲都市海陽ヨットハーバー

第21回ジュニアヨット国際親善レガッタ（ミキハウスカップ2011）

平成23年9月18日（日）東京都若洲ヨット訓練所

（部門別詳細）

1. 総務関係部門

（1）会員開発とクラブ加盟促進（総務委員会/普及渉外委員会/財務委員会）

（イ）休会から活動再開したクラブが1クラブ、新たに3クラブが休会して、現在活動中の登録クラブの代表者である正会員は57名です。

（活動クラブ 57クラブ、休会 22クラブ）（平成24年3月31日現在）

（再開クラブ） 大町B&G海洋クラブ（代表者正会員：本山誠氏）

（休会クラブ） 神奈川県ユースヨットクラブ（代表者正会員：藤井清一氏）、

鹿児島ジュニアヨットクラブ（代表者正会員：橋元幸一）、

鹿屋海洋スポーツクラブ（代表者正会員：日高一夫）

クラブの代表者以外の正会員は、理事12名、監事2名、顧問2名の16名となり、上記加盟クラブの代表者の正会員と合わせて正会員総数は73名です。

（ロ）賛助会員については、「株式会社ライフ・サイエンス研究所」、「アサヒ飲料株式会社」の2社から引き続きご支援を頂いていますが、その後は新しい賛助会員はお願い出来ておりません。

（2）地方水域担当理事の活動（総務委員会/普及渉外委員会）

地方水域担当理事（総括及び東：小松勇一理事、東：中川二郎理事、西：内藤武夫理事、小野澤秀典理事）は、引き続き定例理事会、総会への出席や競技会、大会運営への参画を中心として活動しています。

2. 指導員養成部門（指導育成委員会）

（1）本年度は、吉村前事務局長が病氣療養中で入退院を繰り返していた等の事情で、公認

指導員の更新、新規認定等の作業が着実に実行出来ていなかった為に、新たな公認指導員、準指導員の認定も無く、公認指導員、準指導員の更新もありませんでした。従って、平成24年3月31日現在の公認指導員は118名が登録されており、準指導員の登録はありません。

従って、平成23年度更新時期にあっていた公認指導員については、平成24年度の更新と同時期の更新とすることで、更新の確認作業を進めており、平成24年度の新規認定についても事務手続きを進めております。

- (2) 指導者研修会として、平成23年度第二回通常総会（平成24年2月18日）終了後に、3月後半から実施予定のニュージーランドでの海外セーリング研修と、タイクリニックの事前説明をし、海外での練習等について解説をしてその開催に代えました。

### 3. 普及と広報活動部門

- (1) 各都道府県、関係市町村への広報、陳情活動（広報委員会/普及渉外委員会）

本年度の「国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2011」については、愛知県ヨット連盟、名古屋市ヨット連盟、なごやジュニアヨットクラブとの共同主催とすることで、愛知県、蒲郡市に後援をお願いし、助成金等は頂くことが出来ませんでした。後援名義を頂いて開催出来ました。

- (2) B&G 財団との協調活動（普及渉外委員会/競技委員会）

B&G 財団に対し、その傘下海洋クラブの当連盟主催各競技会、大会への参加呼びかけをして頂くよう継続的に働きかけながら協力関係強化に努力しました。

- (3) クラス別協会との協調活動（普及渉外委員会/競技委員会）

当連盟登録クラブがジュニアセーラー指導のため主として使用している艇種であるOP級、レーザー級、シーホッパー級等のクラス別協会とも連絡を強化して、各艇種の普及と競技会への参加増を努力しており、競技会等に後援を頂きました。

- (4) 日本OP協会との協調活動（普及渉外委員会/競技委員会）

当連盟登録各クラブで最も多くの艇数を使用していて、当連盟主催の競技会でも最も参加艇数の多いOP級のクラス別協会である日本OP協会との連携を強化すべく努力をしています。

- (5) 機関誌等の発行他（広報委員会）

前年度、平成23年3月に第82号を発行予定でしたが、広報委員長が勤務する企業の業務が多忙なことと、平成23年3月11日発生 of 東日本大震災の影響もあり編集、発行が遅れてしまい、年度内発行が出来ませんでした。新年度に入っても状況が改善せず、平成24年3月末までには発行出来ませんでした。何とか新年度の出来るだけ早い時期に第82号・第83号合併号として発行する予定です。

連盟ホームページも少しずつ充実し、競技会のレース公示、帆走指示書等の情報提

供、競技会のレポート、写真などを出来るだけ迅速にアップ出来るよう努力をしています。

(6) 競技会の開催（競技委員会）

(イ) 第31回日本少年少女オープンヨット大会を、平成23年5月3日～5日、神奈川県江の島ヨットハーバーでの開催予定でしたが、3月11日東日本大震災の被害とその後の福島原子力発電所放射能漏れの状況を考慮して開催を中止しました。

(ロ) ジュニアヨット・クリーンエコセーリング大会2011（中海・宍道湖ラムサール条約記念全国大会）を、平成23年6月11日（土）～12日（日）、島根県松江市本庄町水辺の楽校（公園）と中海を会場に、環境大臣賞、文部科学大臣賞、鳥取県知事賞、島根県知事賞、中海市長会会長賞を頂き、文部科学省、環境省、国土交通省、島根県、鳥取県、松江市、中海市長会、（財）日本セーリング連盟等の後援のもと、鳥取県ジュニアヨット協会、隠岐ジュニアヨットクラブ、安来ジュニアヨットクラブ、中海賢明利用協議会との共同主催で昨年が続いての第2回大会として開催しました。  
参加クラブ 5クラブ 参加選手 21名（指導者・保護者・役員 60名）

(ハ) 国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2011を、平成23年8月5日（金）～8月7日（日）、愛知県蒲郡市の海陽ヨットハーバーを会場に、愛知県ヨット連盟、名古屋市ヨット連盟、なごやジュニアヨットクラブとの共同主催で開催しました。ニュージーランドと韓国の2カ国の外国チームを招聘して、又、3月の東日本大震災の被災3クラブ（宮古ジュニアヨットクラブ、松島・名取ジュニアヨットクラブ、いわきジュニアヨットクラブ）の選手、指導者・保護者の費用を連盟で負担して招待しました。  
昨年度からの新しい試みの国内ジュニアヨットクラブ対抗レースは、若干内容を修正して、優勝チームだけでなく、2位、3位のクラブからの各1名計3名の選手を連盟が費用を一部負担して海外研修に派遣する特別賞としました。  
又、中止した第31回日本少年少女オープンヨット大会の特別賞として企画していた、連盟が参加諸費用を負担して関東水域OP連絡会主催のタイクニックに参加する特別賞を、クラブ対抗レース7位と10位のクラブに授与することとしました。  
文部科学省、国土交通省、愛知県、蒲郡市、（財）日本セーリング連盟等多数の後援のもとに、文部科学大臣賞杯、国土交通大臣賞杯、蒲郡市長賞を頂きました。  
参加クラブ 国内 17クラブ 参加選手 88名、外国 2チーム 10名  
合計 19チーム 参加選手 98名（指導者・保護者・役員 150名）

(ニ) 第21回ジュニアヨット国際親善レガッタ（ミキハウスカップ2011）を、平成22年9月18日（日）、東京都若洲ヨット訓練所を会場に、東京都ヨット連盟との共同主催で多勢の参加を得て開催しました。  
新しい試みとして、OP級だけではなくレーザー4.7も募集し、10艇の参加があり、更に指導者・保護者のオープン参加3艇も加えたレースとしました。

参加クラブ 17クラブ 参加選手（個人参加・オープン参加を含む）92名  
（指導者・保護者・役員 150名）

（7）諸外国との親善交流（普及渉外委員会/競技委員会）

（イ）平成23年8月5日（金）～8月7日（日）、愛知県蒲郡市海陽ヨットハーバーで開催の国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2011に、ニュージーランド、韓国の2カ国から、合計10名の選手と4名の指導者を招待し、選手、指導者、保護者、運営役員他招待者も含め国際交流会を開催しました。

（ロ）平成23年9月18日（日）、東京都若洲ヨット訓練所で第21回ジュニアヨット国際親善レガッタ（ミキハウスカップ2011）に外国選手も参加し交流しました。外国選手は少なかったものの、ドイツ学校に通っている選手の友達やその保護者、先生が多数応援に参加して、飛び入りでレース終了後にヨットに乗る体験などで交流を深め楽しんでいました。

（ハ）国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2010のクラブ対抗レース優勝クラブ特別賞で、優勝クラブの江の島ヨットクラブジュニアの3名の選手が、小野澤秀典理事の引率のもと、ニュージーランド北島オークランド市において、平成23年3月25日から4月1日までの期間、現地3家族にそれぞれホームステイをして、海外研修を実施し、国際交流の成果を上げました。

（8）ジュニアヨットクラブの安全対策事業（指導育成委員会/普及渉外委員会）

（イ）平成23年8月5日（金）～8月7日（日）、愛知県蒲郡市の海陽ヨットハーバーで開催の国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2011において、5日の開会式後、国際交流会の前に、大塚製薬(株)よりのポカリスエットの提供を頂いて選手、指導者、保護者に当連盟安井常務理事（当時、現在は副会長）が安全講習会を実施しました。

（ロ）平成24年2月18日開催の通常総会終了後に指導者講習会を実施し、その機会に、併せて安全講習会を実施しました。

以上